



武内直亮
たけうち・なおき
株式会社ブレインマークスビジネスコンサルタント
大手CVS（コンビニエンスストア）で、財務改善、経営改善、経営支援を担当。企業の「本質的な課題解決」に尽力し、多くの経験と実績を積んできた。人材育成を中心とした人事評価制度の構築や理念を中心とした自主性を生み出す組織づくりを得意としている。幅広い経験と実績に裏打ちされたコンサルティングスタイルはクライアントから高い信頼を獲得している。

10年後のためのアドバイス!

同社は2019年に創業したばかりですが、これまでのところ順調に成長しつつあります。訪問看護は需要が拡大する半面で深刻な人手不足に直面しており、事業所の閉鎖やサービスの質の低下が指摘されがちな業界でもあります。こうしたなかで、かえるメディカルは「安定したサービス提供」を継続し、着実に成長を遂げているのです。

その根底には「『出会えてよかった』を創る」という経営理念があります。吉永代表は「規模拡大は追求せずに、地域に恩返しをしたい」と謙虚に話しています。高齢化やメンタルを崩す方が増えている社会にあって、「地域に恩返し」しようとしている同社の役割はますます大きくなっていくはずだと。われわれブレインマークスも同社が持続的な成長を遂げ、地域に恩返しをしつづけるよう、その戦略づくりをしっかり支えていきたいと思っています。

で、利用者とスタッフの人生を豊かにできるような会社でなければと考えています。利用者にもスタッフにも「出会えてよかった」と感じてもらえる意味のある会社で成長していきたいですね。



(左)打ち合わせの様子 (右)風通しの良い雰囲気も特徴のひとつ

武内 実際に創業してみたいかでしたか。
吉永 組織を運営するのがこんなに大変だとは思いませんでした。

武内 実際に創業してみたいかでしたか。
吉永 組織を運営するのがこんなに大変だとは思いませんでした。

武内 事業ではどのような点に

吉永 規模拡大よりも質の向上に全神経を注いでいます。そして、利用者とスタッフの人生を豊かにできるような会社でなければと考えています。利用者にもスタッフにも「出会えてよかった」と感じてもらえる意味のある会社で成長していきたいですね。

武内 どのような経緯で合同会社かえるメディカルを立ち上げたのですか。
吉永 最初は起業するつもりはなかったのですが、いろいろな方たちから「力を貸すよ」とお声がけいただき、自分の成長にもつながると思え、創業を決意しました。

武内 看護業界は人手不足が叫ばれるなかでもとくに人が集まりにくく、職場への定着率も低いといわれています。そうしたなかで、どのようにして人材を確保しているのでしょうか。
吉永 まずは創業時の考えを整理し、「出会えてよかった」という経営理念や行動指針をつくりました。そして、採用時にこれらの趣旨を明確に伝え、そこに共感を抱いてくれた人たちに

武内 採用するようになったところ、採用・定着が少しずつ良い方向にすすみはじめましたが、組織づくりがうまくできず、会社全体が不安定となり、気持ちが折れそうになった時期もありました。それでも私のことを信じてついてきてくれるスタッフに少しでも応えたいという気持ちでなんとかやってきました。

吉永 私たちが注力しているのは訪問による心のケアで、病院や福祉関係者からの依頼を受け、利用者にサービスを提供しています。この分野は最近、規制緩和によって参入障壁が低くなり、競争が増加傾向にあるのですが、幸いなことに当社の事業は毎年順調に成長しています。今後は当社の強みである「同じ思いで働く、誠実な人柄のスタッフたち」と業務の役割分担を明確にし、サービスの質を高めていきたいと考えています。そのため、スタッフの教育システムを充実させ、利用者の家族や支援者との連携を強化していきたいと思っています。

武内 どのような経緯で合同会社かえるメディカルを立ち上げたのですか。
吉永 最初は起業するつもりはなかったのですが、いろいろな方たちから「力を貸すよ」とお声がけいただき、自分の成長にもつながると思え、創業を決意しました。

武内 看護業界は人手不足が叫ばれるなかでもとくに人が集まりにくく、職場への定着率も低いといわれています。そうしたなかで、どのようにして人材を確保しているのでしょうか。
吉永 まずは創業時の考えを整理し、「出会えてよかった」という経営理念や行動指針をつくりました。そして、採用時にこれらの趣旨を明確に伝え、そこに共感を抱いてくれた人たちに

武内 採用するようになったところ、採用・定着が少しずつ良い方向にすすみはじめましたが、組織づくりがうまくできず、会社全体が不安定となり、気持ちが折れそうになった時期もありました。それでも私のことを信じてついてきてくれるスタッフに少しでも応えたいという気持ちでなんとかやってきました。

吉永 私たちが注力しているのは訪問による心のケアで、病院や福祉関係者からの依頼を受け、利用者にサービスを提供しています。この分野は最近、規制緩和によって参入障壁が低くなり、競争が増加傾向にあるのですが、幸いなことに当社の事業は毎年順調に成長しています。今後は当社の強みである「同じ思いで働く、誠実な人柄のスタッフたち」と業務の役割分担を明確にし、サービスの質を高めていきたいと考えています。そのため、スタッフの教育システムを充実させ、利用者の家族や支援者との連携を強化していきたいと思っています。

の支えによって、苦しい時期を脱することができましたが、一方で当時の私と同じような境遇の人たちはまだ大いなるはずで、

その人たちの支えになることができないかと思っただけです。あの意味、自分を救ってくれた周りの人たちに恩返しをしたいと思っただけかもしれない。

10年後をリードする 未来企業

144

「出会えてよかった」を実践する訪問看護を目指す!!

大阪府堺市を中心に訪問看護事業を手掛ける合同会社かえるメディカル。2019年4月に法人化して以降、需要が高まる訪問看護業界で、心のケアに重点を置いたサービスを展開している。「訪問看護を通じて『出会えてよかった』を創りたい」と語る吉永宜之代表は、どのような思いで事業を立ち上げ、どのようなビジョンで事業を展開しているのか。株式会社ブレインマークスの武内直亮氏が聞いた。

武内 なぜ心のケアに興味を抱

吉永 私自身、若い頃に家族の心の問題に直面したからだと思います。高校1年のときには父がアルコール依存症に、大学在学中には母がくも膜下出血・高次脳機能障害になり、大学も休学せざるを得なくなり、どこか投げやりになってしまったのです。公園でぼんやり「これからどうなってしまうのだろう」「普通の生活を送ることはもう難しいかもしれない」と不安になったことを今でも鮮明に覚えています。私の場合は多くの人たち



スタッフの皆さんとマスコットキャラクター

吉永宜之

よしなが・のぶゆき
合同会社かえるメディカル 代表

1978年大阪府生まれ。団地育ち。穏やかな父・教育熱心な母に育てられ幼少期を過ごす。高校時代、父のアルコール依存により家庭が壊れ、不登校になるが、大阪外国語大学夜間学部に進学。母の脳出血により経済的困窮に陥り休学。ヘルパーとして医療の現場にすすみ、復学・卒業後に大阪労災看護専門学校に進学。整形外科・精神科・在宅医療の現場を経験した後、地域で孤立する方や家族の力にならな

